

一 妙法蓮華經五字の蔵の事

仰せに云はく、此の意は妙法の五字の中には一念三千の宝珠有り。五字を蔵と定む。天台大師玄義の一に判ぜり。所謂「此の妙法蓮華經は本地甚深の奥蔵なり」と。法華經の第四に云はく「是法華經蔵と。妙華嚴法阿含蓮方等華般若經涅槃」と。又云はく「妙涅槃法般若蓮方等華阿含經華嚴」已上。妙法蓮華經の五字には十界三千の宝珠あり。三世の諸仏は此の五字の蔵の中より、或は華嚴の宝を取り出だし、或は阿含・方等・般若の宝を取り出だし、種々説法し玉へり。加之論師・人師等の疏釈も悉く此の五字の中より取り出だして一切衆生に与へ玉へり。此等は皆五字の中より取り出だし玉へども、妙法蓮華經の袋をば持ちたまはず。所詮五字は上行菩薩の付囑にして、更に迹化の菩薩・諸論師のいろはざる題目なり。仍って上行所伝の南無妙法蓮華經は蔵なり。金剛不壞の袋なり。此の袋をそのまゝ日本国は一切衆生に与へ玉へり。信心を以て此の財宝を受け取るべきなり。今末法に入つては日蓮等の類、受得する所の如意宝珠なり云云。